

8月

みんなくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分(8月1日を除く)

■本館展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します!
「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」
などなど、話題や内容は千差万別!

どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

1日
(日曜日)

時間: 15時から16時
話者: 朝倉敏夫(文化資源研究センター教授)
話題: 朝鮮半島のトラ
場所: 朝鮮半島の文化展示

8日
(日曜日)

話者: 笹原亮二(民族文化研究部准教授)
話題: ギターと世界 一歴史の中の音楽と楽器一
場所: 本館展示場内ナビひろば

15日
(日曜日)

話者: 日高真吾(文化資源研究センター准教授)
話題: 被災文化財を救う
【企画展「歴史と文化を救う—阪神淡路大震災からはじまった被災文化財の支援」関連】
場所: 企画展示場A

22日
(日曜日)

話者: 中牧弘允(民族文化研究部教授)
話題: 万博のユニフォームはカルチャーウェアか?
場所: 本館展示場内ナビひろば

29日
(日曜日)

話者: 山中由里子(民族文化研究部准教授)
話題: アレクサンドロスは「大王」なのか?
場所: 本館展示場内ナビひろば

1年間みんなくは何度でも入館できる 「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいあります。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引
◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。
詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893/平日9:00~17:00)

編集後記

入道雲の8月は、青春の冒険、ほろ苦い恋、夏祭り、
花火など、齢を重ねたわたしには記憶のページが切な
く蘇る季節だ。これら記憶イメージは、雷鳴、風鈴、蝉
時雨、さまざまな音に彩られている。記憶は音と強く結
びついている。

たしかに、音の振動は身体を震わせ、さまざまな情動
を引き起こし、想像力をかきたてる。だからこそ身体に深
く刻まれるのだろう。また、視覚と違って聴覚は指向性
が少ないだけに、音は、まわりの人びとを巻き込む力がある。
音のもつこうした身体性・共同性に着目して音声言語
社会を論じたのは、マクルーハンだった。

今号の特集では、3月末にリニューアルオープンした音楽
展示を、音のもつ力という観点から紹介いただいた。
身体性・共同性を伴う音の力に着目することは、人の営
みの共同性をあらためて考えるきっかけになるだろう。

民博創設者でもある梅棹忠夫先生の訃報に接し、学
恩を受けた一人として衷心から哀悼の意を表したい。本
誌でも先生を偲ぶ特集を企画中である。(久保正敏)

●表紙:牛とともに門づけをおこなうチャルメラ(ナーガスワラム)奏者(インド)

次号の予告

特集

彫刻家エル・アナツイのアフリカ

月刊みんなく 2010年8月号

第34巻第8号通巻第395号 2010年8月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 西尾哲夫
編集委員 久保正敏(編集長) 朝倉敏夫 榎永真佐夫
庄司博史 中牧弘允 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹
デザイン 宮谷一孝
制作・協力 財団法人千里文化財団
印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
お願いします。
*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてください。



みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

